槇野学長によるWhole institution's approachの発表が特に印象的であったようで、ディスカッションを方向づけることとなった。

当日夜開催された、国連日本政府代表部特命全権大使主催の夕食会には、国連HLPFに参加する産学官からの日本政府代表団約20人が参加し、岡山大の槇野学長や横井副学長も出席。SDGsに関する日本の現状と今後の展開についてさまざまな情報交換が行われた。

広島大短期交換留学プログラム
留学生による最終発表会を開催

広島大学短期交換留学プログラム（HUSA）留学生（北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジア出身）が、このほど東広島キャンパスの学生プラザで、「グローカル・リーダーシップ・プロジェクト：大学と地域の協働～留学生の自助支援：適応と再適応～」実践研究グループプロジェクト最終発表会を開催した。

17ヵ国41大学からの交換留学生53人で参加するHUSAプログラムで8グループを構成し、HUSA担当の恒松直美森戸国際高等教育学院准教授による英語と日本語の司会・進行のもと実践プロジェクトの最終発表を行った。留学生の自助支援プロジェクトの一環として広島大学における適応支援への提案と帰国後の自国の大学での再適応支援について調査報告をした。留学生の出身校のさまざまな支援の取り組みについて知ることができた。

発表するHUSAプログラム留学生

発表へのフィードバックをする学生

発表会は、地域公開として開催され、学内の教員・大学院生・留学生・日本人学生・地域行政の皆様からも貴重なフィードバックをいただき、大学と地域の協働についても多くの示唆を得ることができた。広島大公開講座「グローバル社会・大学・地域を結ぶ～異文化との接触に備えて～」の受講者も参加するなど、グローカルな輪が広がっている。

台湾・国立嘉義大学生を受入れ（上教大）

上越教育大学では7月24日までの34日間、同大学の協定校である台湾の国立嘉義大学から学生5人の訪問を受け入れた。今回の訪問は海外の教育現場で授業参観・実習を通して異文化理解を深めることを目的として、台湾教育省が行う「協定校とのインターンシッププログラム」によるもの。

同大学に滞在中のプログラムは、同大学附属小・中学校における授業参観・異文化理解交流をメインに、同大学生との交流、大学の授業見学、日本文化体験等を実施した。また、滞在中は同大学の国際学生宿舎に複数人ずつ宿泊し、通学・買い物・自炊など、日常生活を自力で過ごした。

参加した台湾の学生からは、「附属学校で指導したことは困難だったけどやりがいがあった」「日本語スキルが上がった」「すばらしい出会いと経験ばかりだった」といった感想が寄せられた。同大学は、異文化理解マインドを持った教員養成を使命の一つと考え、今後も国際交流を推進する方針だ。

附属小学校での授業風景

日本文化体験「箏」